弔辞

○○○○○○殿の御霊にお別れを申し上げます。先にあなたが病床に伏されて以来ご家族ご親族の皆様方の献身的なご看病の甲斐もなく、またひたすらにあなたのご快癒を祈っておりました私共の切なる願いもむなしく、あなたは遂に不帰の客となられました。生者必滅の習いとは申しながら本日ここで最後のお別れをすることになろうとは、なんと悲しいことでありましょう。

かえりみますと、あなたは昭和○年慶応大学をご卒業後、○○○○○○会社に入社され、以来その大半を総務一筋にご活躍され昭和○年取締役本社総務部長に、昭和○年には常務取締役に昇進され、その重責を見事に果して来られたのであります。また、グループ各社に対してよきアドバイザーとして、それぞれの発展を力強く支援されてこられたのであります。あなたが○○○○○会社並びにそのグループ各社の躍進に残された足跡は誠に大きなものがございます。

この間あなたは○○○○○会社創業の精神といわれる人格と信念、そして熟慮断行身を似て実践され全社員の範となってこられました。こうしてあなたの仕事に対する取り組む至誠と熱意には私共○○○○○会社は、会社創業時より格別のごひいきに預かっておりますが、特に総務担当としてあなたは二十有余年にわたり、ご厚意を賜りまして誠に感謝に堪えない次第でございます。私共には何時もニコニコと笑いながら元気なお顔をみせておられましたが、もはやそのお顔に接することも出来ません。誠に痛根の極みでございます。

いま、ここに祭壇に向い、在りし日のご温顔を目のあたりにいたしますと、あの元気なころのお姿が彷彿としてまいり、萬感胸に迫り、申しあげる言葉も知りません。ひたすらにご冥福をお祈り申しあげる次第でございます。

どうぞ安らかにお眠りください。

平成○年○月○日

○○○○○株式会社

○○○　○○○○○